hida
広報
ひだ
町木
第74号
肥田町
まちおこし推進協議会
H27.7.1発行

写真で見る 活き活き町の活動

肥田町小宮祭開催

自治会文教部

5/24

好天に恵まれ、火伏せの神様の祭事に始まり、町内の安全祈願、五穀豊穣を祈願しての大太鼓を、町の若い衆はじめ子供会の皆さんで引き回しての賑々しい巡行が行われました。町内の多くの方々の応援参加をいただき有難うございました。

水稲のじかまきに挑戦

ファーム肥田

5/5

ファーム肥田では、水稲の生産コスト削減のため(株)伊関商会の協力により約40反の圃場に日本晴のじかまき栽培を試み、5月末には田園を美しく緑に染め始めています。

生産者の米価が低下している中、新たな技術に挑戦しておられます。

福寿会総会開催

5/16

鵜野俊雄さん、薩摩正平さん、宮川喜弘さんの新スタッフでスタート。総会には米原のレイカ280グループ(レイカ老人大学出身で編成された演芸ボランティア)が銭太鼓、歌謡ショウなどで参加頂き、皆さんの元気が一段と盛り上がりました。

稲枝地区自治会主催のソフトボール大会で奮闘

自治会体育部

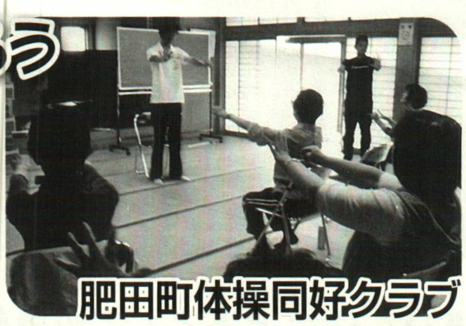
5/31

異常な暑さ続きの中、熱気の溢れる町対抗戦が繰り広げられました。

肥田町もふれあい広場にて、初戦は下岡部町と対戦、唸る相手の快速球投手に臆せず立ち向かいホームランを含む快打を連発し、初戦を制した若い肥田チームの方々の素晴らしいチーム力、敢闘ぶりは観戦する私達にも、明日の「まちづくり」への頼もしい期待が大いに膨らむ一日でした。

6/4 自分の体力を知ろう

今回は、聖泉大学の多胡先生ご指導の下、「自分の体力を知ろう」「自分の体力年齢は」をテーマに脳トレ体操や色々な体力検査も受け、皆さん熱心に取り組まれ活き活きの時間となりました。



肥田町体操同好クラブ

宇曽川堤防の草刈り、消防訓練、墓地清掃の実施

6/7

河川愛護活動として宇曽川堤防等の草刈を、トラクター接続の草刈機および恒例の町民全戸の出動による草刈り、ならびに墓地のクリーン作戦は早朝よりご苦労様でした。

美しく整備された墓地は、発生するごみやお供えしたものを各自お持ち帰りをお願いします。

自治会環境部

七月の寿

鵜野　豊子さん

お誕生日
昭和3年7月16日
「米寿」をお迎えになられ、おめでとうございます。向暑の折、ご自愛くださいますようお祈り申し上げます。

肥田の歴史を深く知ろう

崇徳寺に肥田の古代碑を建立　―肥田城以前の歴史を顕彰するために

平成18年、19年、20年に肥田町の圃場整備事業に先立ち、埋蔵文化財調査がおこなわれました。肥田からは、「肥田城」以前の埋蔵文化財も数多く発掘されました。ところが、肥田には古代を顕彰する記念碑は、万葉歌碑ぐらいで、もう一つ、古代を語る石碑をと、この「**大友夜須麿碑**」が崇徳寺境内に建立されました。

はじめに― 肥田にも条里制（じょうりせい）が

数年がかりで肥田の地表が一変しました。古くからある約百m四方の畦（あぜ）がとりはらわれて、トラクターが自由に行き来できる大きな圃場に変えられたからです。

この約百m四方の畦こそが、古代（奈良～平安時代）土地制度の名残の一つだったのです。奈良（平城京）や京都（平安京）では、中国の唐にならって条里制が敷かれました。これは都だけではなく地方にも及びました。大きくは6丁（654m）四方の区画群（「里」という）を条里制と呼び、京では境目が大通りで区分されました。

小字名がなくなった

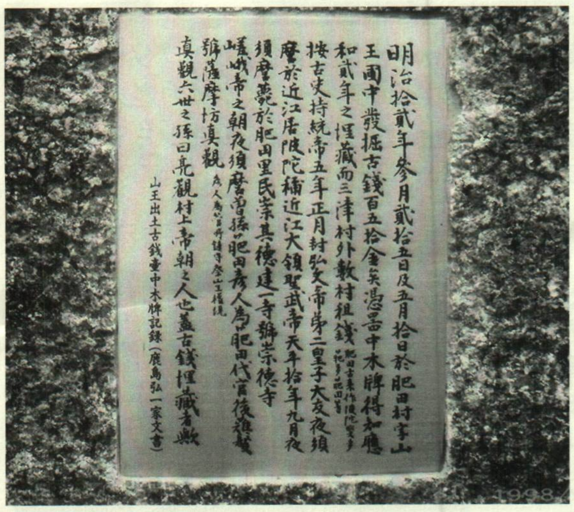
さらに条理一区画を6等分して109m四方の区画群を「坪」とよび、長い歴史のあゆみの中で坪ごとにその土地にちなんだ「小字名」が愛称としてつけられたようです。（洪水などで変形したところもあります。）

「鹿島」とか、「伊関」とか、「賓寺（びんでら）」とか、「塚乞手（つかこいで）」とか。「山王（さんのう）」とか、「丹波屋敷（たんばやしき）」とか、「新田（しんでん）」とか、「墓立（はかだち）」とか。しかし今回の圃場整備で畦がとりはらわれたことで、小字名は過去のものとなりました。整備前に発掘調査された埋蔵文化財の写真が、小字名単位で崇徳寺資料室に展示してあります。古代の資料も多数発掘されました。

埋蔵古銭の壷中の木札には

小字「山王」で、江戸時代から明治初期にかけて、古銭が古壷に入った状態で4回にわたって発掘されたことは、「広報ひだ」H26.1.1号でご報告させていただきました。

うち2回は、いずれも壷中に板書文や木牌（木札）が入っており、埋蔵年がわかっています。1つは応安4年（1371年）、もう1つは応和2年（992年）とあり応和2年は平安中期、それらに関する記録が、当時（明治初期）肥田の戸長だった鹿島家（現鹿島弘一家）に伝わっていました。これが肥田の古代伝承資料の出典です。しかし、古壷、木牌は現存していません。



「大友夜須麿」とはどういう人

今回、古代碑表記の「大友夜須麿」とはどういう人か。鹿島家文書によると「大友夜須麿」とは壬申（じんしん）の乱の敗者、天智天皇の皇太子大友皇子の第二子で、乱後肥田に40余年居住して、天武政権に加担し、この地域の「大領（だいりょう）」をつとめた人、とあります。しかし、彼の父が壬申の乱の敗者だったため日本の「正史」には登場しません。

夜須麿は死後、肥田里民からその徳を崇められて一寺が建てられ（崇徳寺か）、菩提を弔われたように書かれています。その子孫たちは代々肥田に住み、荘官になってここの地域を管理しながら、山王祠を建てたり、「薩摩坊」と名乗る僧侶になったり、古銭壷を埋蔵したりしたとも書かれています。

さいごに― 史実としての顕彰が課題

「鹿島家文書」は史実に照らしてどうなのか。念入りな今後の顕彰が必要ですが、今回の大掛かりな発掘調査（H19年肥田町「上田」発掘）で小字「北墓立」に奈良～平安時代、この地域の管理者と思える豪族の屋敷跡が変遷を経ながら出土したといわれています。

また、愛荘町長野にある大朧（だいろう）神社が「大領（だいりょう）」（郡司（ぐんじ）＝郡役所の長官）の役所跡ではないかといわれてきたいきさつがあります。江戸時代、膳所藩家臣によってまとめられた「近江輿地志略（おうみよちしりゃく）」という地誌がありますが、「大朧神社」の項に「一説には天智天皇の皇子大伴耶須羅麿を近江大領といふ、この霊を祭るにや不祥」とも書かれています。

肥田のみなさん、今後の歴史研究には肥田城だけではなく、今回未発掘の小字「塚乞手」は古墳跡かどうか、なども含めて、古代への夢も湧いてまいります。

高瀬　俊英

当記念碑の竣工式は8月18日（寺法要日）を予定しています。

《註》壬申（じんしん）の乱とは

そもそも壬申の乱とは、はじめは近江と吉野に分かれた皇族同士の争いでしたが、敗者となった近江の大友皇子は、内戦のあと自刃しており、その直系子孫は「正史」からは除外されたのか確証がなく、大津の三井寺に記録が残っているにすぎません。

また、壬申の乱以前から、近江朝廷方は百済に加担したのに対し、吉野朝廷方は、新羅、唐に接触を求めており、国の進路を決める戦いでもあったようです。勝利した吉野朝廷方の天武政権は、近江朝廷方の無難な人も入れて発足したと考えられています。